

社民党、日本共産党など4団体が観桜会での自衛隊武装パレードに抗議 山岸副市長、「装備など、どこまで許容範囲か検討したい」と回答

陸上自衛隊高田駐屯地の隊員、約170人が高田城百万人観桜会を盛り上げるためとして4月20日、「市中武装行動（パレード）」を行った問題で、上越地区平和環境労働組合会議、上越地区労働組合総連合、社会民主党上越協議会、日本共産党上越地区委員会の4団体は30日、村山上越市長に対する抗議と要請を行いました。

抗議文では、「パレードは、迷彩服に小銃を携行し、さらに装甲車も参加するなど市民、観桜会観光客に対し威圧感を与える内容だった。新聞報道でも、観桜会に訪れた市民や観光客からは、『びっくりした』『なぜ、観桜会というイベントに銃を携行してパレードするのか』といった声が掲載されている。上越市の最も大きな観光イベントの一つである観桜会のイメージを損ねるばかりか、上越市が平成7年に『非核平和友好都市宣言』の主旨に反する」として、「武装行動が行われた経緯」との総括



を明らかにすること」「今後このような武装行動を行わないこと」を求めています。この文書は山岸副市長に手渡ししました。

「時代の流れとともに自衛隊が市民に認知されている状況がある。（今回のことについては）市民の違和感はある程度まで許容範囲か検討したい」「今回の結果を踏まえ、みなさん方の意向や考えも踏まえながら、市としての次の方向を考えていかなければならない」とのべました。来年は高田開府400年でもあります。今後の動きを注視していきたいと思えます。

市教委、公民館運営・配置基本方針案のパブリックコメント延期

上越市教育委員会は30日、「上越市公民館の運営及び配置に関する基本方針（案）」についてのパブリックコメントを延期することを決め、市議会文教経済常任委員会の草間敏幸委員長に伝えました。

草間委員長宛ての野澤朗教育部長の文書によると、「現在の案が教育委員会としての最終案であるとの誤解を招く恐れがある」として、5月中に実施を予定していたパブリックコメントは延期し、地域協議会や関係住民に十分説明し、意見をいただき、集約・整理した後、改めて実施することです。

先の文教経済常任委員会や各地で開催された地域協議会で厳しい批判の声が相次いだのが今回の決定につながったものと思えます。私は4月下旬、旧頸北の柿崎区、吉川区、頸



【ワサビ】この花と初めて出会ったのは吉川区の山間部、川谷地区でした。白い花も美しかったです。ワサビが地元にあることを知って驚いたものです。写真は柿崎区黒岩地区で撮影しました。

城区で行われた地域協議会を傍聴してきました。いずれの地域協議会も行政不信が根強く、公民館の運営及び配置に関する基本方針案についても厳しい意見が相次ぎました。

このうち、27日の吉川区地域協議会では、「高田区の地域協議会の（仮称）厚生産業会館の場合のように、今回もごり押しされるんじゃないか」「団塊世代のものにとっては学校が終ると公民館だった。公民館分館はそれぞれの地域で考えられる方向に進んできた経過がある。自主性の尊重を」「社会教育の充実といいながら、分館の統廃合が先にありきのよう気がする」

「案が実行されると吉川区ではどういうことになるのか、次回はもっと詳しく説明してほしい」等といった声が出ていました。

写真は27日に行われた吉川区地域協議会の様子。



春よ来い

第二五一回

ちようちん行列

カンカンカンカンカン……。四月二十九日、午後七時四〇分ちよつと前だったでしようか、秋葉山の上の方で半鐘が連打されました。行列の先頭を行く人たちが山頂にある秋葉神社に着いた合図です。

ちようど一年前の同じ日、私は大島区の上岡周辺にいました。百四十数年続いているという秋葉山へのちようちん行列を一度、この目で見てみたい、そしてできれば写真に撮りたいと思っていました。

薄暗くなった上岡の集落センター前でソバを御馳走になったのち、出発前の様子などを写真に撮りはじめました。地元の人々の薦めで、「写真を撮るなら、あそこが一番いいよ」と言われた場所は保倉川をはさんで南側の山の中腹でした。

出発してから一〇分くらいでちようちんの列が見え始めました。行列の先頭を行く半鐘の音も聞こえます。真つ暗ななかを進むちようちんは小さな点になって見えません。点の列が左に曲がったり、右に曲がったり……。幻想的な美しい光の行進でした。そして、左下の方角からはドンドンドンという太鼓の音が途切れることなく伝わってきました。集落センター脇の広場で叩いている太鼓の音です。

私が中腹の田んぼの畦で撮った写真は数枚です。家のパソコンで見ると、ねらっていたS字型のちようちん行列の写真もちゃんと撮れていました。そして、思ったのです、よし、来年はおれもちようちん行列に加わろうと。

今年のちようちん行列。出発前、上岡集落センター前で行われた式典では、保倉地区振興協議会の丸田新一さんが、「きょうは大勢のみなさんから登っていただき、秋葉山の火の神様にお賽銭をいっばいあげて、家内安全、地域の振興、健康、大いに願ってください」と大きな声で元気に挨拶。上岡の中條道男町内会長も祭りとちようちん行列を伝承していく決意をのべ、大きな拍手に包まれました。

歩き始めて間もなく、私は汗びっしょりになりました。太っていることもありすが、思ったよりも気温が高かったのです。左手にちようちん、右手にはカメラを持ってゆっくり、ゆっくり登りました。私の前や後ろには千代子さんなど上岡の人たちがいました。鳥居をかついで登った時の話など興味深く聴かせてもらいました。

細い道を右へ左へと一列縦隊で歩くようになった時でした。私のすぐ後ろの男性が、「さあ、今度はちようちんは右手に持つて」と指示を出しました。道は右上方向へと上っていました。ちようちんを右手に持つのは、行列をきれいに見ていただくためだということでした。もちろん、左上方向へ上がる時は左手にちようちんを持つことになりました。昨年、私がカメラを構えた場所には今年もカメラマンが集まっていたようですが、写真に小さな点の列がきれいに写るのは、こうした配慮があるからなんです。話を聴いて、すごいと感心しました。

秋葉山は標高が二九四。山頂までの途中、一緒に歩いた人たちが「ミズバシヨウが咲いているよ」「あれは直江津の街だよ」「あの灯りは上達だ」などとガイド役を務めてくださいました。歩いている間中、下の方から聞こえてきたのは、幸雄さん、菊治さん、隆一さんなどが叩く太鼓の音です。これは私たちへの励ましの音でした。

カンカンカンカンカンという半鐘の音がして数分後、私も無事、秋葉神社に参拝出来ました。地元の人のもてなしの心を味わいながら、上りも下りも楽しく歩くことができたちようちん行列、何よりも、神社から眼下に見える大平の夜景が美しかったです。

「りとるの家 はなれ」の内覧会へ行ってきました

29日、社会福祉法人りとるらいふの「りとるの家 はなれ」（市内石橋、御館橋の近く）の内覧会へ行ってきました。放課後等デイサービス、短期入所などの機能をそなえた

最新の施設がどんなふうにつくられたかをこの目で見ておきたかったからです。

第一印象は「明るくて、機能的な感じ」と言ったところでしょうか。素敵な施設でした。吉川区出身の片桐理事長とも会って話ことができました。写真は事務室です。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	4月24日(水)	5月1日(水)
上越南消防署	0.050	0.040
上越北消防署	0.050	0.053
新井消防署	0.043	0.053
頸北消防署	0.040	0.050
頸南消防署	0.040	0.053
東頸消防署	0.050	0.047
高士分遣所	0.050	0.047
名立分遣所	0.056	0.053

高田世界館で俳優、井上井月（いのうえ・せいげつ）を描いた映画、「ほかいびと」を29日、観てきました。たんたんに進むストーリーと暖房効果で時どき、うつらうつらとしながらも心地よさが残った映画でした。たぶん、井月を演じた田中泯さんのせいだと思います。舞のような動きも素敵でしたが、祖父、音治郎と似た風貌に親しみと懐かしさをおぼえました。

映画が終わってから行われた、高田文化協会の河村一美さんによる北村監督と田中泯さんへのインタビューも良かった。田中泯の映画のなかでの踊りについて、北村監督が、「俳句を一句示し、これで踊って下さい」とお願いした。一回限り、やり直しなしてやっていただいた。この言葉を聴いて、セリフ以上に踊りというか、体の動かし方に迫力を感じた謎が解けました。河村さんに「ひとこと」を求められ、冒頭、「この劇場、すごいですね」と言った田中泯さんの言葉も忘れられないものとなりました。

